

グローバル化と国際社会 A		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択 必修科目	科目ナンバリング	23100102	

1. 授業のねらい・概要

「グローバル化と国際社会」について、まず歴史的な考察を踏まえながら、「グローバル化」が本来有する意味と課題について問い直すことをねらいとした講義内容である。グローバル化が果たして何をもたらし、何を成し遂げ、その後どのような課題が残され、また今後どのような時代が予想されるのかを講義内容とする。より具体的には資料、論文等を用いて基本的な考え方の習得を目指したい。その後、今日の国際社会における具体的な諸問題について取り上げる。

2. 授業の進め方

前半は教科書を中心に進め歴史的な推移を学び、その後様々な資料・論文等で進めていく。また、板書を中心とするも、ミニッツ・ペーパーも適宜準備し、意見発表、質問の準備とする。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方、内容の概観）	9. 世界経済の概観（課題とその背景）
2. 途上国における経済発展とその理論	10. グローバル化の恩恵と課題
3. 中進国が抱える諸問題（雇用問題、財政問題等）	11. 今日の通商問題に関する経済学的考察
4. 離脱後の英国と欧州連合（EU）の動きについて	12. 自由貿易協定に関する経済理論
5. 英国における産業革命がもたらした世界への影響	13. 格差とポピュリズムの視点から見た世界の動向
6. 戦後世界経済の概観（冷戦の終焉、グローバル化等）	14. 国際社会における環境問題（先進国と途上国）
7. 資本主義と社会主義における経済活動	15. 国際社会に関する主たる問題点の整理と講義の総括
8. アジアの近代化・工業化と貿易関係にみる変化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については授業の進度内容に応じて適宜、授業において伝える。予習としては、授業で指示した内容で進めてほしい。復習は、授業で用いた論文、資料について見直し、自分ではどう考えるかを整理することが望まれる。予習・復習に必要な時間は個人差もあるので明確には設定しないが、概ね2時間程度が目安であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、授業において解説とともに返却する。宿題については授業冒頭で解説する。

6. 授業における学修の到達目標

今日の国際社会について、自分なりに課題を見出し、その課題に対し自らの視点で考え抜きまとめあげる力の修得を目指す。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出、レポート等（30%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は指定しない。適宜、授業で資料、データ、論文等を配布する。

参考文献は、細谷雄一（2012）『国際秩序』（中公新書、880円+税）、中村伸一（2012）『G20の経済学 国際協調と日本の成長戦略』（中公新書、820円+税）等

9. 受講上の留意事項

後期の「グローバル化と国際社会 B」も併せて履修することが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。